

序

不況に明けくれた1965年もすぎ、新しい年もはや新緑の候となりました。私共技術面の研究に携わるものにとっても、今年は明るい年であって欲しいと思います。

建築界においても、今まで研究室の中にあった新しいものが、今年は漸く具体化されて皆様のお目にとまる様になりつつあるものがいくつかあります。いくつかの高層ビルがその姿をあらわし、またプレファブ集合住宅の建設も盛んになるでしょう。

しかし、古くから行なわれている慣用工法も、また絶えず新しい目でみなおされつつあり、この面にも多くの地味ではあるが重要な問題が見出されております。

私共の研究所報第7号は、丁度この様な時に刊行される運びとなりましたが、発展し行く建築技術に、いづらかでも貢献できれば幸と考えます。

1966年4月

清水建設研究所 所長

大 築 志 夫